

55th RECITAL 【1987年(昭和62年)1月18/31/2月1日】

人見記念講堂/神戸文化ホール/フェスティバル



V

男声合唱組曲
「草野心平の詩から・第二」

1. 雷雨
2. 秋
3. 鬼女
4. 岩手荒巻
5. 冬
6. 龍安寺方丈の庭
7. 竹
8. 竹
9. 竹
10. オホーツク

作詩 草野 心平
作曲 多田 武彦
指揮 北村 協一

男声合唱組曲

V「草野心平の詩から・第二」

草野心平先生の詩と私

多田 武彦

作曲上の恩師清水修先生から男声合唱曲を書くことをすすめられ、処女作「柳河風俗詩」を作ったのが昭和29年（私が24才のとき）。そして毎年いくつかの組曲をつくるようになって昭和36年に初めて草野心平先生の詩をじっくり読んだ。この年、組曲「草野心平の詩から」を書いたが、当時は難曲として敬遠され勝ちであった。そんなこともあって昭和43年までは、草野先生の詩とも疎遠であったが、この年、再びその詩のすばらしさを思い起して、組曲「北斗の海」と「蛙」を書いた。この頃から合唱団の力量がいろいろな作曲の先生の難曲をこなすようになって来て、草野先生の詩によるこれらの組曲が愛唱されるようになった。昭和56年には組曲「蛙・第二」、昭和58年には、組曲「草野心平の詩から・第二」が初演された。

関西学院グリークラブのかたがたには、前記の草野先生の詩による合唱組曲を、すべて手懸けていただいた。その折々の心に残る名演奏であった。中でも「金魚」にみられた精緻なハーモニー、「黒い蛙」や「ごびらつふの独白」にみられた「語りの部分と歌唱部分との対比」の見事さ、は他に例を見ない。

今回、はからずも「草野心平の詩から・第二」を採りあげていただいた。前作同様、個々の詩には関連はない謂はば、「草野心平の詩による合唱音楽の画廊」であるが、永年私が好んで読みつけた詩ばかりである。北村協一先生と関学グリーの諸君による、前作とはまた趣きを異にした「展覧会の絵」を心待ちにしている。

演奏会のご成功と今後のご活躍を心からお祈り申しあげる。



多田武彦